

図2 合計特殊出生率の年次推移（年齢階級別内訳）

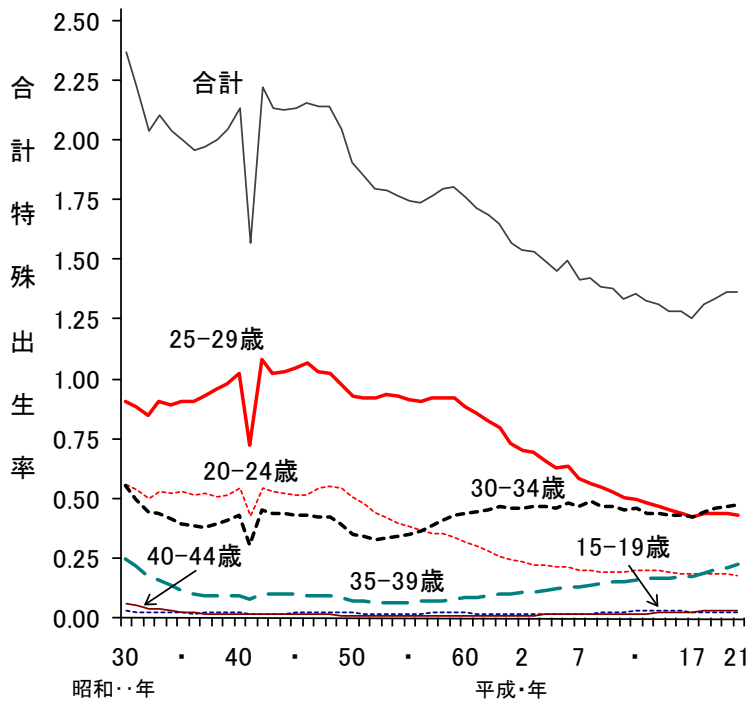
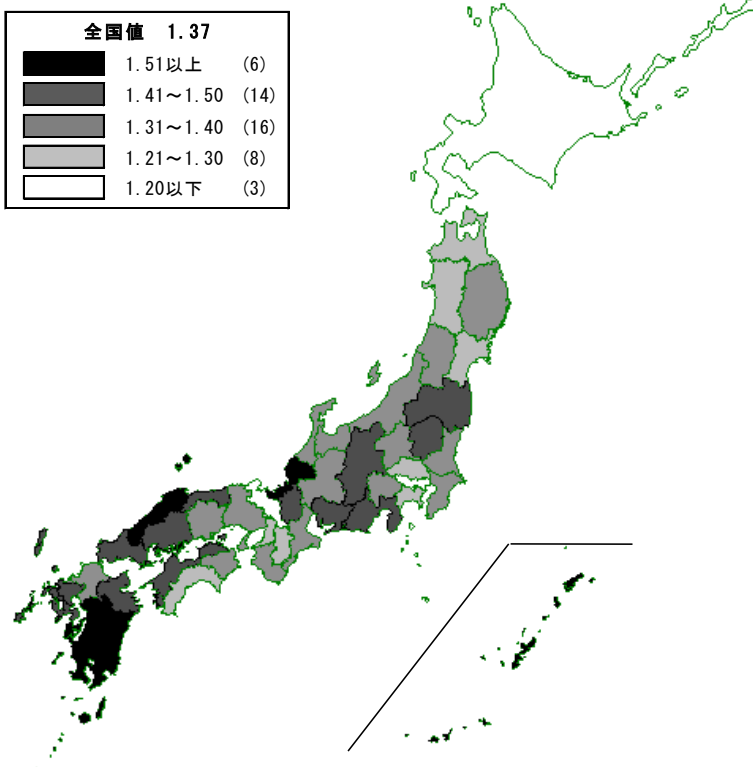


表5 都道府県別にみた合計特殊出生率

都道府県	平成21年	平成20年
全 国	1.37	1.37
北 海 道	1.19	1.20
青 森 県	1.26	1.30
岩 手 県	1.37	1.39
宮 城 県	1.25	1.29
秋 田 県	1.29	1.32
山 形 県	1.39	1.44
福 島 県	1.49	1.52
茨 城 県	1.37	1.37
栃 木 県	1.43	1.42
群 馬 県	1.38	1.40
埼 玉 県	1.28	1.28
千 葉 県	1.31	1.29
東 京 都	1.12	1.09
神 奈 川 県	1.28	1.27
新 潟 県	1.37	1.37
富 石 県	1.37	1.38
山 川 内 川 市	1.40	1.41
福 井 県	1.55	1.54
山 梨 県	1.31	1.35
長 野 県	1.43	1.45
岐 阜 県	1.37	1.35
静 岡 県	1.43	1.44
愛 知 県	1.43	1.43
三 重 県	1.40	1.38
滋 賀 県	1.44	1.45
京 都 府	1.20	1.22
大 阪 府	1.28	1.28
兵 庫 県	1.33	1.34
和 歌 山 県	1.23	1.22
和 歌 山 県	1.36	1.41
鳥 取 県	1.46	1.43
島 根 県	1.55	1.51
山 口 県	1.39	1.43
山 口 県	1.47	1.45
山 口 県	1.43	1.43
徳 島 県	1.35	1.30
香 川 県	1.48	1.47
愛 媛 県	1.41	1.40
高 知 県	1.29	1.36
福 岡 県	1.37	1.37
佐 賀 県	1.49	1.55
長 崎 県	1.50	1.50
熊 本 県	1.58	1.58
大 分 県	1.50	1.53
宮 崎 県	1.61	1.60
鹿 児 島 県	1.56	1.59
沖 縄 県	1.79	1.78

図3 都道府県別合計特殊出生率（平成21年）



注：分母に用いた人口は、全国は各歳別日本人人口、都道府県は5歳階級別総人口。

### 3 死亡

#### (1) 死亡数・死亡率

平成 21 年の死亡数は 114 万 1920 人で、前年の 114 万 2407 人より 487 人減少し、死亡率（人口千対）は前年と同率の 9.1 となった。

昭和 30 年以降は 70 万人前後で推移していたが、昭和 50 年代後半から増加傾向となり、平成 2 年以降は 80 万人台、平成 7 年以降にはほぼ 90 万人台となり、平成 15 年からは 100 万人をこえ、平成 19 年からは 110 万人台となっている。

昭和 50 年代後半から 75 歳以上の高齢者の死亡が増加しており、平成 20 年からは死亡数の約 3 分の 2 を占めている。（図 4）

年齢（5 歳階級）別に死亡率（人口 10 万対）をみると、ほとんどの年齢階級で前年より低下している。（表 6-1）

死亡率性比（男の死亡率／女の死亡率×100）を年齢（5 歳階級）別にみると、全年齢階級で 100 以上となっており、男の死亡率が高いことを示している。また、50～79 歳の各年齢階級では、男の死亡率が女の死亡率の 2 倍以上となっている。（表 6-2）

図 4 死亡数及び死亡率の年次推移

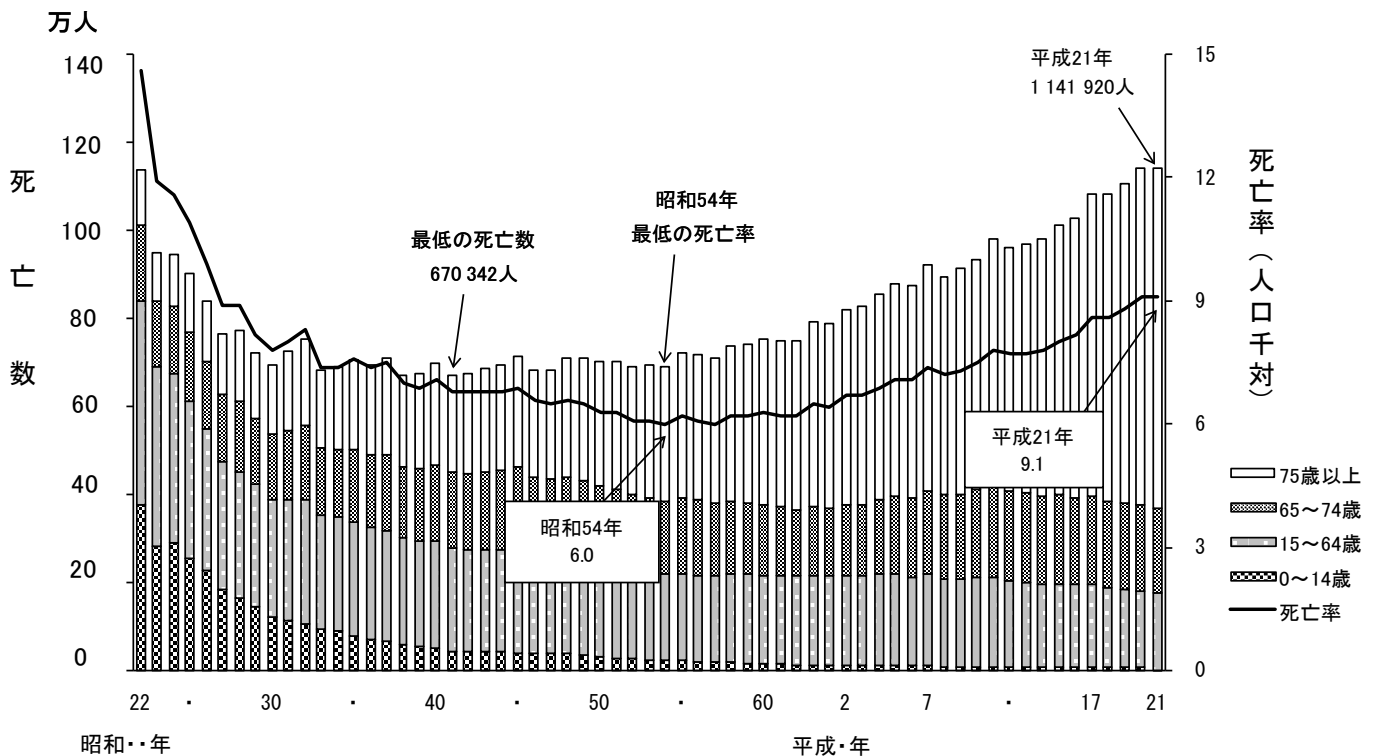


表6-1 年齢（5歳階級）別にみた死亡数・死亡率（人口10万対）

年齢階級	死亡数			死亡率		
	平成21年	平成20年	対前年増減	平成21年	平成20年	対前年増減
総数	1 141 920	1 142 407	△ 487	907.6	907.1	0.5
0～4歳	3 460	3 747	△ 287	65.0	70.1	△ 5.1
5～9	534	557	△ 23	9.5	9.7	△ 0.2
10～14	488	516	△ 28	8.3	8.7	△ 0.4
15～19	1 467	1 621	△ 154	24.4	26.7	△ 2.3
20～24	2 960	2 977	△ 17	44.3	43.3	1.0
25～29	3 559	3 622	△ 63	48.9	49.1	△ 0.2
30～34	4 927	5 282	△ 355	58.7	60.1	△ 1.4
35～39	7 786	7 690	96	81.7	81.6	0.1
40～44	10 369	10 034	335	123.1	121.7	1.4
45～49	14 579	14 674	△ 95	189.3	191.6	△ 2.3
50～54	22 688	23 321	△ 633	296.5	301.7	△ 5.2
55～59	41 931	46 146	△ 4 215	462.8	472.6	△ 9.8
60～64	61 605	60 767	838	658.5	682.6	△ 24.1
65～69	82 044	80 491	1 553	983.5	1 006.3	△ 22.8
70～74	109 530	115 785	△ 6 255	1 592.2	1 671.5	△ 79.3
75～79	159 487	163 351	△ 3 864	2 754.0	2 873.4	△ 119.4
80～84	201 418	198 991	2 427	4 771.8	4 920.6	△ 148.8
85～89	189 929	183 113	6 816	8 176.0	8 457.9	△ 281.9
90～94	139 747	140 585	△ 838	14 466.6	14 782.9	△ 316.3
95～99	67 801	64 764	3 037	21 731.1	22 724.2	△ 993.1
100歳以上	14 950	13 837	1 113	31 145.8	33 748.8	△ 2 603.0

注：総数には年齢不詳を含む。

表6-2 性・年齢（5歳階級）別にみた死亡数・死亡率（人口10万対）・死亡率性比（平成21年）

年齢階級	死亡数		死亡率		死亡率性比
	男	女	男	女	
総数	609 079	532 841	993.0	826.4	120.2
0～4歳	1 935	1 525	70.9	58.8	120.6
5～9	293	241	10.1	8.8	114.8
10～14	283	205	9.4	7.1	132.4
15～19	994	473	32.3	16.2	199.4
20～24	2 046	914	59.5	28.2	211.0
25～29	2 367	1 192	63.7	33.5	190.1
30～34	3 254	1 673	76.2	40.5	188.1
35～39	5 061	2 725	104.6	58.0	180.3
40～44	6 812	3 557	160.0	85.4	187.4
45～49	9 619	4 960	248.0	129.7	191.2
50～54	15 317	7 371	400.7	192.6	208.0
55～59	29 121	12 810	649.7	279.8	232.2
60～64	43 252	18 353	945.6	383.8	246.4
65～69	56 765	25 279	1 424.8	580.2	245.6
70～74	73 059	36 471	2 294.6	987.0	232.5
75～79	100 783	58 704	4 002.5	1 793.0	223.2
80～84	112 993	88 425	6 856.4	3 436.6	199.5
85～89	80 431	109 498	11 424.9	6 763.3	168.9
90～94	45 518	94 229	19 205.9	12 925.8	148.6
95～99	16 227	51 574	27 045.0	20 465.9	132.1
100歳以上	2 391	12 559	34 157.1	30 631.7	111.5

注：1）総数には年齢不詳を含む。

2）死亡率性比＝男の死亡率/女の死亡率×100

## (2) 死因

### ① 死因順位

平成 21 年の死亡数・死亡率（人口 10 万対）を死因順位別にみると、第 1 位は悪性新生物で 34 万 3954 人、273.4、第 2 位は心疾患 18 万 602 人、143.5、第 3 位は脳血管疾患 12 万 2274 人、97.2 となっている。（表 7）

主な死因の年次推移をみると、悪性新生物は、一貫して上昇を続け、昭和 56 年以降死因順位第 1 位となり、平成 21 年の全死亡者に占める割合は 30.1%となっている。全死亡者のおよそ 3 人に 1 人は悪性新生物で死亡したことになる。

心疾患は、昭和 60 年に脳血管疾患にかわり第 2 位となり、その後も死亡数・死亡率ともに上昇傾向であったが、平成 21 年は前年より減少し、全死亡者に占める割合は 15.8%となっている。

脳血管疾患は、昭和 26 年に結核にかわって第 1 位となったが、昭和 45 年をピークに低下しはじめ、昭和 56 年には悪性新生物にかわり第 2 位に、更に、昭和 60 年には心疾患にかわり第 3 位となりその後も死亡数・死亡率ともに低下を続けている。平成 21 年の全死亡者に占める割合は 10.7%となっている。（図 5、図 6）

図 5 主な死因別死亡数の割合（平成 21 年）

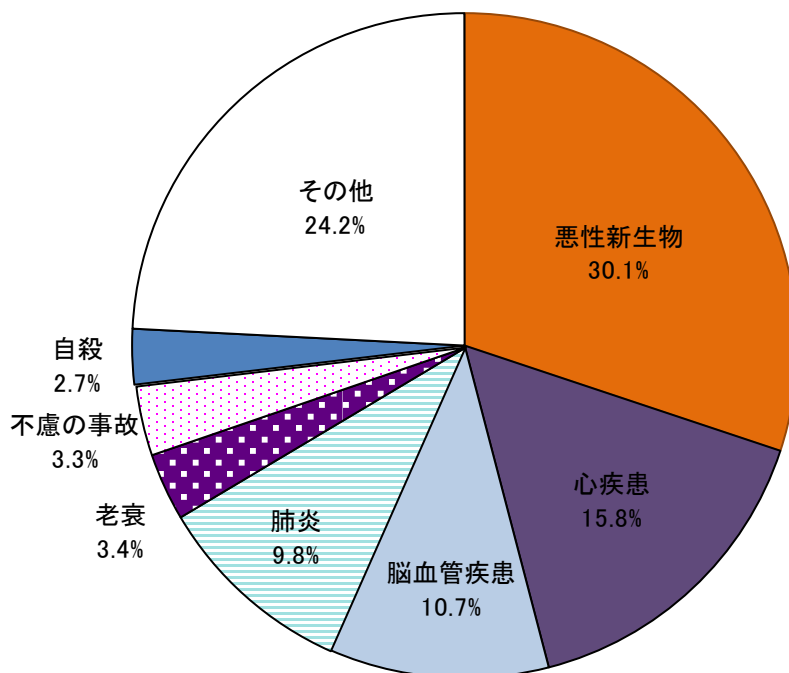
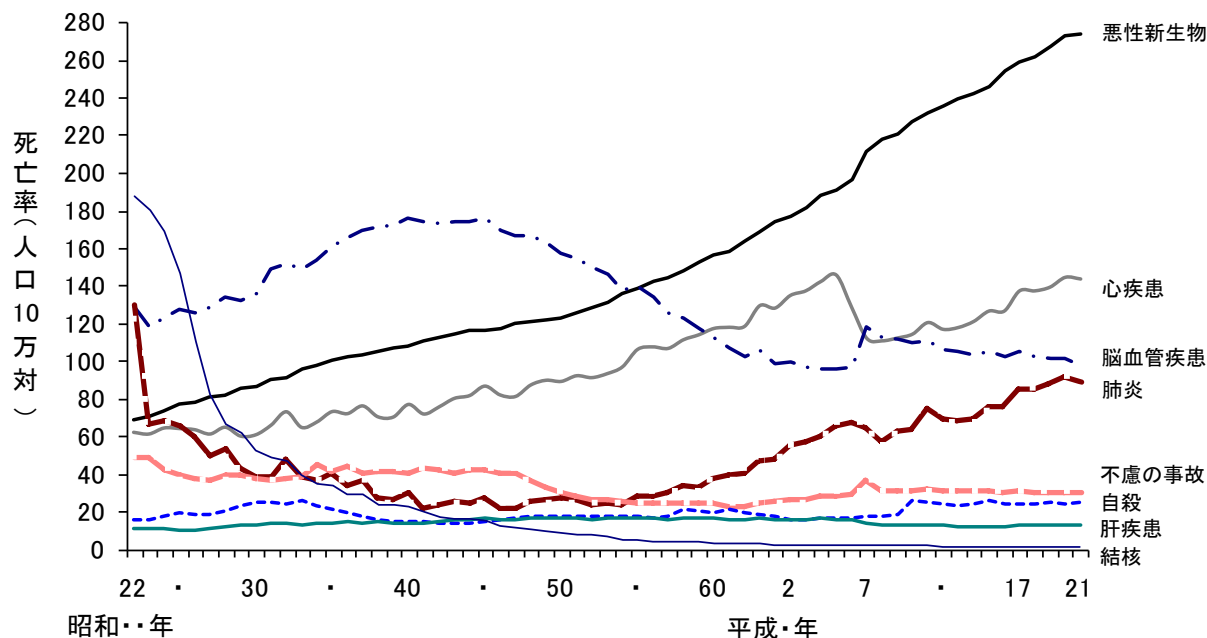


表7 性別にみた死因順位別死亡数・死亡率（人口10万対）

死 因	平成21年						平成20年	
	総 数		男		女		総 数	
	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率
全 死 因	1 141 920	907.6	609 079	993.0	532 841	826.4	1 142 407	907.1
悪 性 新 生 物 (1)	343 954	273.4	206 260	336.3	137 694	213.5	342 963	272.3
心 疾 患 (2)	180 602	143.5	85 443	139.3	95 159	147.6	181 928	144.4
脳 血 管 疾 患 (3)	122 274	97.2	59 243	96.6	63 031	97.8	127 023	100.9
肺 炎 (4)	111 922	89.0	59 841	97.6	52 081	80.8	115 317	91.6
老 衰 (5)	38 649	30.7	9 293	15.2	29 356	45.5	35 975	28.6
不 慮 の 事 故 (6)	37 583	29.9	22 502	36.7	15 081	23.4	38 153	30.3
自 殺 (7)	30 649	24.4	22 158	36.1	8 491	13.2	30 229	24.0
腎 不 全 (8)	22 724	18.1	10 706	17.5	12 018	18.6	22 517	17.9
肝 疾 患 (9)	15 937	12.7	10 440	17.0	5 497	8.5	16 268	12.9
慢性閉塞性肺疾患 (10)	15 339	12.2	11 928	19.4	3 411	5.3	15 520	12.3

注：1) ( ) 内の数字は死因順位を示す。  
 2) 女の9位は「糖尿病」で死亡数は6 576、死亡率は10.2である。  
 3) 女の10位は「大動脈瘤及び解離」で死亡数は6 237、死亡率は9.7である。  
 4) 「結核」は死亡数が2 155、死亡率は1.7で第24位となっている。

図6 主な死因別にみた死亡率の年次推移



注：1) 平成6・7年の心疾患の低下は、死亡診断書（死体検案書）（平成7年1月施行）において「死亡の原因欄には、疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください」という注意書きの施行前からの周知の影響によるものと考えられる。  
 2) 平成7年の脳血管疾患の上昇の主な要因は、ICD-10（平成7年1月適用）による原死因選択ルールの明確化によるものと考えられる。

## ② 年齢別死因

平成 21 年の死因を性・年齢（5 歳階級）別に構成割合で見ると、5～14 歳では不慮の事故及び悪性新生物が、15～19 歳及び 20 歳代では不慮の事故及び自殺が多く、30 歳代、40 歳代では自殺及び悪性新生物が多い。40 歳代からは年齢が高くなるにしたがって、悪性新生物の占める割合が多くなり、男では 60 歳代で、女では 50 歳代でピークとなる。それ以降は男女とも心疾患、脳血管疾患、肺炎の占める割合が、年齢が高くなるとともに多くなっている。男では 90 歳以上で肺炎が最も多く、女では 85 歳以上 100 歳未満で心疾患、100 歳以上では老衰が最も多くなっている。（図 7-1）

また、減少を続ける 1 歳未満の乳児死亡数は 5 年連続で 3000 人を下回り、その死因別構成割合をみると、「先天奇形、変形及び染色体異常」の占める割合が多い。（図 7-2）

図 7-1 性・年齢階級別にみた主な死因の構成割合（平成 21 年）

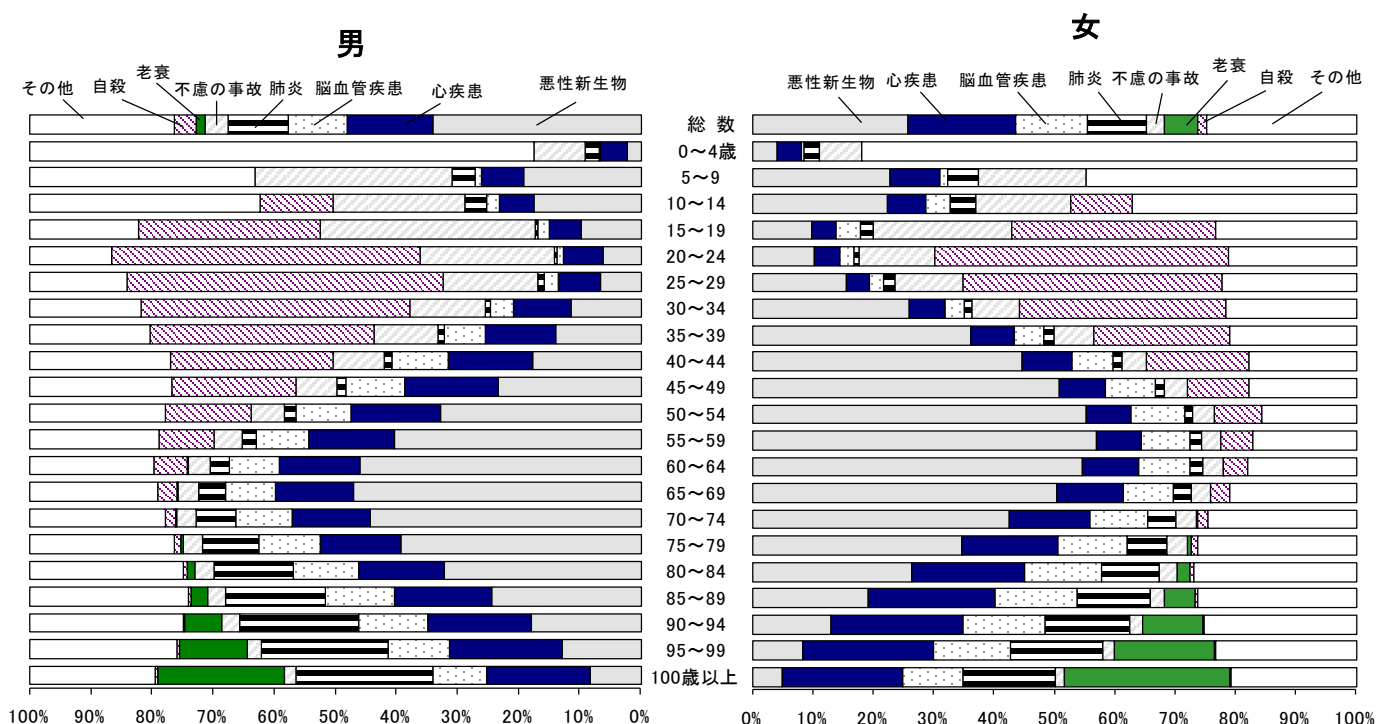
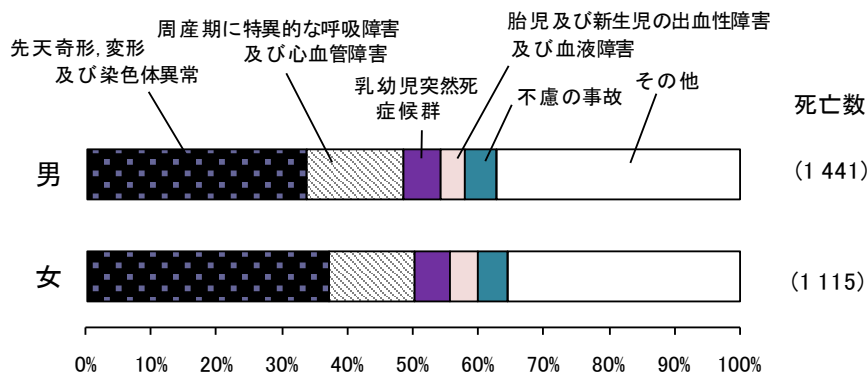


図 7-2 乳児死亡の主な死因の構成割合（平成 21 年）



### ③ 部位別にみた悪性新生物

悪性新生物について死亡数・死亡率を部位別にみると、男の「肺」は上昇傾向が著しく、平成5年に「胃」を上回って第1位となり、平成21年の死亡数は4万9022人、死亡率（人口10万対）は79.9となっている。

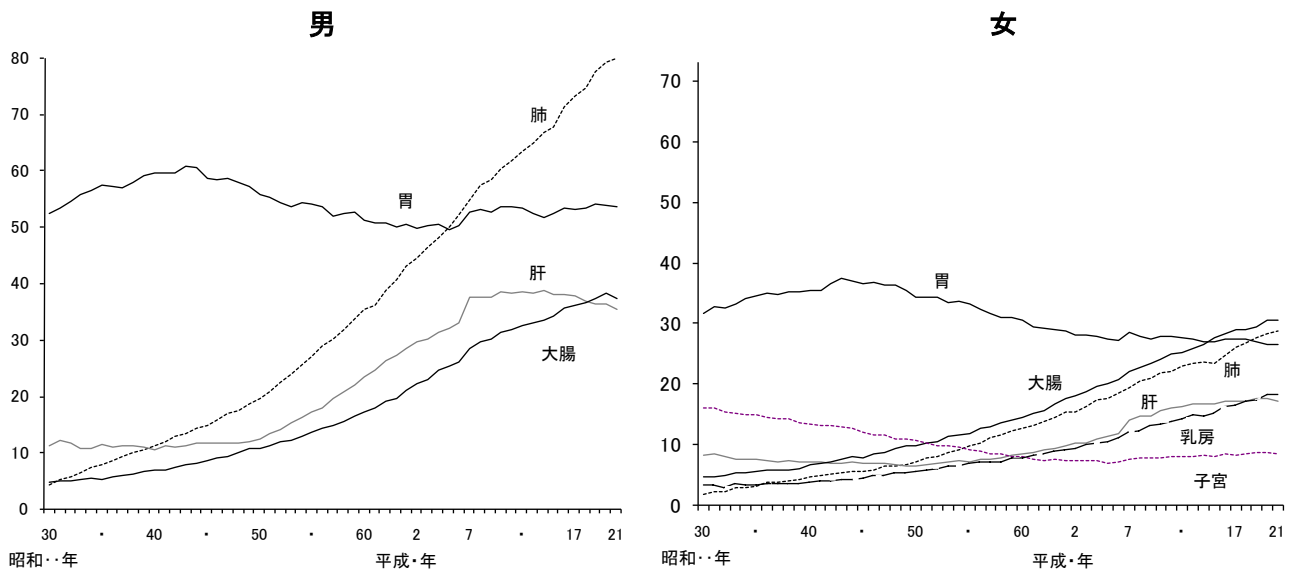
また、女の「大腸」と「肺」は上昇傾向が続いており、「大腸」は平成15年に「胃」を上回って第1位となり、平成21年の死亡数は1万9659人、死亡率（人口10万対）は30.5となっている。（表8、図8）

**表8 悪性新生物の主な部位別にみた死亡数・死亡率（人口10万対）**

部位	昭和40年	50	60	平成7年	17	18	19	20	21
<b>男</b>									
胃	28 636	30 403	30 146	32 015	32 643	32 745	33 143	32 973	32 764
肝	5 006	6 677	13 780	22 773	23 203	22 576	22 300	22 332	21 631
肺	5 404	10 711	20 837	33 389	45 189	45 941	47 685	48 610	49 022
大腸	3 265	5 799	10 112	17 312	22 146	22 392	22 846	23 419	22 748
<b>女</b>									
胃	17 749	19 454	18 756	18 061	17 668	17 670	17 454	17 187	17 236
肝	3 499	3 696	5 192	8 934	11 065	11 086	11 299	11 333	11 083
肺	2 321	4 048	7 753	12 356	16 874	17 314	17 923	18 239	18 546
乳房	1 966	3 262	4 922	7 763	10 721	11 177	11 323	11 797	11 914
子宮	6 689	6 075	4 912	4 865	5 381	5 513	5 622	5 709	5 523
大腸	3 335	5 654	8 926	13 962	18 684	18 664	19 013	19 592	19 659
<b>男</b>									
胃	59.4	55.6	51.1	52.6	53.0	53.2	53.9	53.7	53.4
肝	10.4	12.2	23.3	37.4	37.7	36.7	36.3	36.4	35.3
肺	11.2	19.6	35.3	54.8	73.3	74.6	77.5	79.1	79.9
大腸	6.8	10.6	17.1	28.4	35.9	36.4	37.1	38.1	37.1
<b>女</b>									
胃	35.5	34.4	30.6	28.5	27.4	27.4	27.0	26.6	26.7
肝	7.0	6.5	8.5	14.1	17.1	17.2	17.5	17.6	17.2
肺	4.6	7.2	12.7	19.5	26.1	26.8	27.8	28.3	28.8
乳房	3.9	5.8	8.0	12.2	16.6	17.3	17.5	18.3	18.5
子宮	13.4	10.7	8.0	7.7	8.3	8.5	8.7	8.8	8.6
大腸	6.7	10.0	14.6	22.0	28.9	28.9	29.4	30.4	30.5

注：大腸の悪性新生物は、結腸の悪性新生物と直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物を示す。

**図8 悪性新生物の主な部位別死亡率（人口10万対）の年次推移**



## 4 婚姻

平成 21 年の婚姻件数は 70 万 7824 組で、前年の 72 万 6106 組より 1 万 8282 組減少し、婚姻率（人口千対）は 5.6 で前年の 5.8 を下回った。

婚姻件数は昭和 40 年代後半には 100 万組を超え、婚姻率（人口千対）も 10.0 以上で、婚姻ブームを呈した。その後は組数・率とも低下傾向となり、昭和 63 年以降は増加に転じ、平成 5 年以降は増減を繰り返しながらほぼ横ばいで推移していたが、平成 14 年から 4 年連続で減少し、平成 18 年以降は増減をくりかえしている。（図 9）

初婚の妻の年齢（各歳）別婚姻件数の構成割合を 10 年ごとにみると、ピーク時の年齢が上昇するとともに、その年齢が占める割合は低下し、高い年齢の割合が増加している。また、年齢（5 歳階級）別にみた妻の初婚率（女性人口千対）をみると、前年に比べ 20 代では低下し、30 代では上昇している。（表 9、図 10）

平成 21 年の平均初婚年齢は、夫 30.4 歳、妻 28.6 歳で、夫は前年より 0.2 歳、妻は前年より 0.1 歳上昇している。これを都道府県別にみると、平均初婚年齢が最も低いのは、夫は、宮崎県で 29.3 歳、妻は福島県で 27.5 歳であり、最も高いのは夫・妻とも東京都で、夫 31.6 歳、妻 29.7 歳である。（表 10-1、表 10-2）

再婚の割合をみると、夫は前年と同率で 18.7%、妻は 16.5% で前年より 0.1 ポイント減少している。（表 11）

図 9 婚姻件数及び婚姻率の年次推移

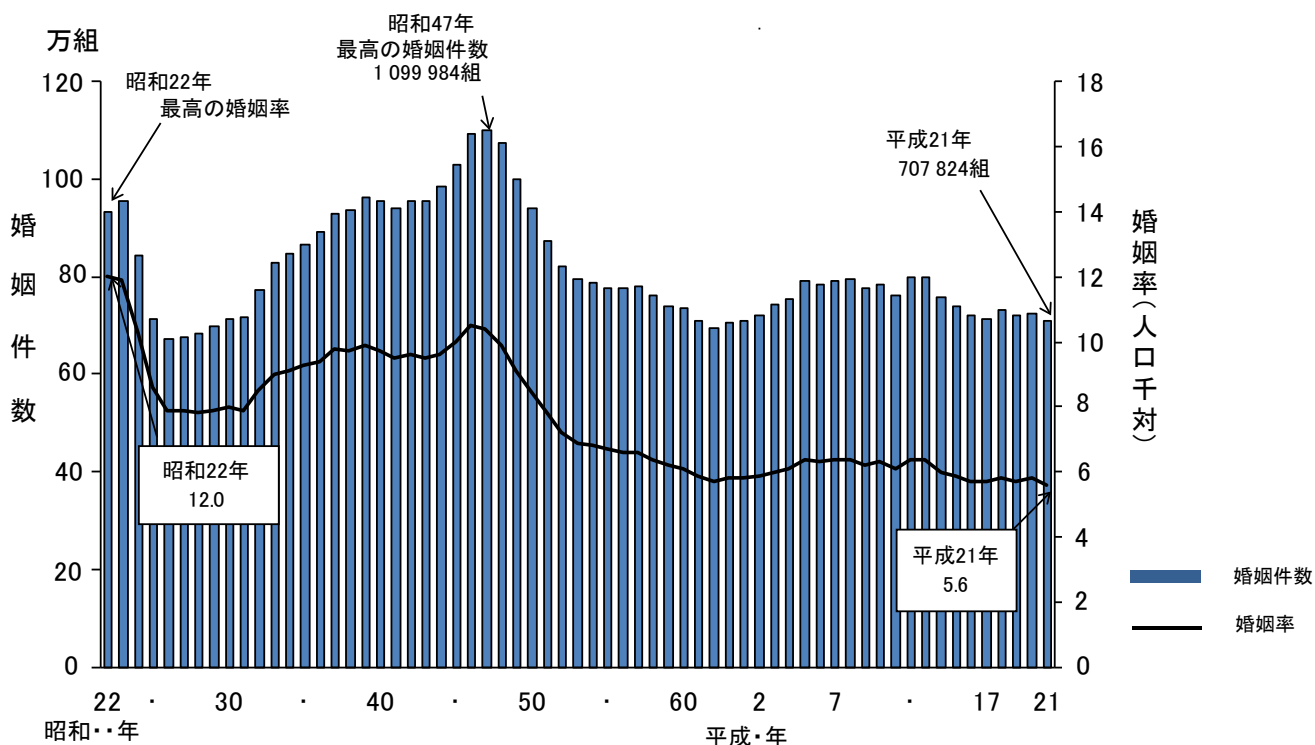
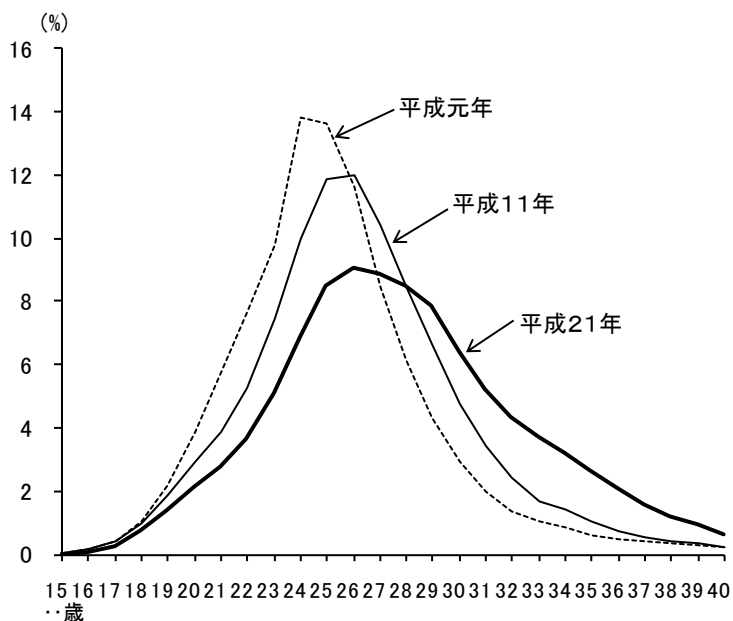




図10 初婚の妻の年齢（各歳）別婚姻件数の割合



注：各届出年に結婚生活に入ったもの。

表9 年齢（5歳階級）別にみた妻の初婚率（女性人口千対）の年次推移

	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳
平成 5 年	52.07	72.61	16.72	3.35
10	44.88	66.16	19.62	4.50
15	36.24	60.82	23.29	6.28
19	33.25	61.10	26.17	8.14
20	33.41	61.84	27.71	8.74
21	32.04	60.64	28.00	9.16

注：各届出年に結婚生活に入ったもの。

表11 全婚姻件数に対する再婚件数の割合の年次推移

	夫	妻
	%	%
平成 5 年	12.7	11.1
10	13.9	12.4
15	17.1	15.4
19	18.8	16.5
20	18.7	16.6
21	18.7	16.5

表10-1 平均初婚年齢の年次推移

	夫	妻
	歳	歳
平成 5 年	28.4	26.1
10	28.6	26.7
15	29.4	27.6
19	30.1	28.3
20	30.2	28.5
21	30.4	28.6

注：各届出年に結婚生活に入ったもの。

表10-2 都道府県別にみた平均初婚年齢（平成21年）

都道府県	夫	妻
	歳	歳
北海道	29.8	28.4
青森	30.0	28.1
岩手	30.2	28.1
宮城	30.0	28.3
秋田	30.0	28.2
山形	29.9	28.0
福島	29.4	27.5
茨城	30.2	28.2
栃木	30.2	28.3
群馬	30.2	28.3
埼玉	30.8	28.9
千葉	30.8	28.8
東京都	31.6	29.7
神奈川県	31.1	29.2
新潟	30.3	28.4
富山	30.3	28.4
石川	30.1	28.3
福井	30.0	28.2
山梨	30.8	28.7
長野	30.7	28.8
岐阜	30.1	28.1
静岡県	30.2	28.2
愛知県	30.2	28.3
三重	29.8	28.1
滋賀	29.9	28.1
京都府	30.6	28.9
大阪府	30.4	28.8
兵庫県	30.2	28.6
奈良	30.2	28.7
和歌山	29.7	28.1
鳥取	29.7	28.0
島根	29.8	28.1
岡山	29.6	28.0
広島	29.8	28.2
山口	29.6	27.9
徳島	29.8	28.2
香川	29.6	28.0
愛媛	29.4	27.9
高知	30.2	28.5
福岡	29.9	28.5
佐賀	29.6	28.0
長崎	29.5	28.1
熊本	29.4	28.0
大分	29.8	28.3
宮崎	29.3	27.9
鹿児島	29.5	28.1
沖縄	29.8	28.3

注：平成21年に結婚生活に入ったもの。